

和 都 第 820 号

平成20年10月16日

国土交通省 道路局長 殿

岡山県和気町長 大 森 直 徳



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり意見を提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県和気町

○ 道路は、国民生活や経済・社会活動を支えるもっとも基本的なインフラであり、その整備には全国民が長年にわたり熱望してきているところです。

特に、市町村道は地域住民の日常生活に密着した最も身近な社会資本であり、主要な生活基盤であるため、その整備を促進することは、地域の交流とふれあいを促し、活力とにぎわいのある経済・文化を創造し、地域の活性化につながることを期待されます。

しかしながら、道路整備は年々増大する交通需要に依然として追いつけない状況です。

とりわけ、地域の発展をもたらす市町村道の整備につきましては、非常に立ち遅れているのが現状です。地方には、まだまだ道路が必要です。

・道路特定財源に当たっては、地方分権を推進する上からも、地方の声や道路整備の実情に十分配慮し、地方が真に必要な道路整備をより主体的かつ着実に進められるよう、道路整備財源の安定的な確保を図るべきである。

②-1 地域の現状と抱える課題

岡山県和気町

○現状

新「和気町」は、平成18年3月1日、旧佐伯町と旧和気町が合併し、2年が経過しました。

合併前の両町の財政状況は、交付税の大幅な削減などにより急速に硬直化が進み、厳しい歳出の削減を行っているにもかかわらず収支不足は解消せず、近年は基金の取り崩しでしのいできたのが現状であり、基金残高は減少する一方で財政運営は限界を迎えつつあります。

そして、本町では行財政改革大綱及び集中改革プランに従って歳出の削減に努力しています。

また、岡山県においても目標総額400億円の削減計画、岡山県財政構造改革プランを作成して持続可能な財政構造改革に取り組んでいるところでございます。

そうしたなか、町全体の道路網については、山陽自動車道の広域交通基盤と連動した国・県道の体系的整備、安全で安心な生活道路の整備を行なうべく努力いたしております。

○課題

岡山県及び本町においては、交付税の大幅な削減などにより道路整備に当てる予算が毎年減少してきており、現道の維持管理が出来にくい状況になっているのが現実です。

そして、安全・安心の確保で橋梁点検を実施しなければなりません。市町村では専門職もおらないし、コンサルへ委託するとなれば財源措置が出来にくい状況です。是非とも国の財政支援をお願いしたい。

また、国においては道路整備に対するニーズを踏まえ、地域間格差への対応や生活者重視の視点を踏まえつつ、地方の活性化や自立に必要な地域の基幹道路の整備や渋滞解消のためのバイパス整備、高速道路への広域的アクセスの強化など、地域の自主性にも配慮しながら、適切に措置願いたい。

②－２ 地域の目指すべき将来像

岡山県和気町

○現状と課題

本町には、現在、国道２路線、主要地方道５路線、一般県道７路線、１・２級町道が４７路線あり、町民に広く利用されていますが、年々増加する交通量に対応しきれない状況にあるとともに、幹線道路が集落内を通っている地区もみられます。町全体の道路網については、山陽自動車道の広域交通基盤と連動した国・県道の体系的整備、安全で安心な生活道路の整備が必要となっています。

○道路・交通の方針

安全で便利な道路・交通ネットワークの再編や安全な日常生活道路の確保等の課題に対応し、都市づくりの目標を実現するため、町内各地域の連携・交流を促進する道路・交通体系の整備や快適で安心できる日常生活道路の整備等以下のような方針を設定しています。

ア、定住基盤となる道路交通網の体系的整備

広域・地域間相互の円滑な連携、防災機能の強化、安全で快適な町内交通の確保などを図るため、幹線道路等を中心に道路・交通網の体系整備に努めます。

県道などについて、歩道の確保や地方高規格道路美作岡山線の早期完成及び主要地方道岡山赤穂線におけるバイパス整備（石生地域・藤野地域）等により、集落環境の保全を図るとともに、町役場本庁舎へのアクセス道路として、歩道が確保された（仮）金剛川左岸線の整備を検討します。幅員の狭い県道福本和気線、和気笹目作東線、和気熊山線、和気吉井線及び佐伯長船線については拡幅整備を促進します。また、町内全域の交通を円滑に結ぶ道路の整備に努めます。

さらに、中心市街地の都市機能の更新を図るため、和気駅周辺地区都市再生整備事業（まちづくり交付金事業）により、道路拡幅及び駅前広場等の整備を図るとともに、駐車場の確保に努めます。

一方、高齢社会の進行や循環型社会の進展に対応していくとともに、中心市街地と周辺地域における交通の利便性を高めるため、誰もが利用しやすいデマンドタクシー（乗合タクシー）の運行を開始したところです。また、鉄道については、和気駅の利用性の向上、増便、最終便の延長及び狭あいな踏切の改善等について関係機関に働きかけて行きます。

イ、計画的な市街地の形成と併せた道路の整備

本荘地域日室地区周辺の日常生活道路における通過交通を排除するため、計画的な市街地の形成とあわせて（仮）泉衣笠バイパス線や

(仮) 日室森線を整備し、地区内交通の安全性と利便性の向上に努めます。

ウ、快適で安心できる日常生活道路等の整備

快適で安心できる地区内交通を確保していくため、4 m 未満の狭あいな道路の解消に努めるとともに、子ども、高齢者及び障害者などあらゆる人々の利用に配慮して、歩道の確保、段差の解消を図ります。金剛川における人道橋橋詰の安全な確保等に努めます。

また、通学路となっている本荘小学校や和気小学校周辺などの道路においては、安全で快適な歩行空間を確保するため、コミュニティ道路（歩車共存道路）の整備に努めます。

さらに、日常生活道路や県道備前柵原自転車道においては、緑化などを推進し快適でふれあいのある道づくりを推進していきます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岡山県和気町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	主要地方道岡山赤穂線(藤野地内)のバイパスの早期実施について 藤野地区住民の大半は東西に延びる細長い県道の両脇に居住して生活しております。昭和40年代より、我が国の高度成長に伴い、交通の往来も一段と厳しくなり交通車両の頻繁に加え、道路幅員も狭く、更に歩道も設置されていない状況です。 また、近年大型車両が激増しており、非常に危険を感じています。地区内でも、ここ数年交通事故が多発し、その中には尊い命まで失っている者もいます。この地域で生活している者は毎日が恐怖の連続で不安な日々を送っております。一日も早く安心して暮らせる環境にさせていただきたく要望いたします。 バイパス新設 L=1,100m ・歩行車両からの見通しが悪い。 ・歩道がなく、路肩幅員も狭く、歩行者・自転車等が危険。 ・日中を通じて交通量(9,216 台)が多く、大型車の混入率(14.3%)が高い。 ・道路沿いに民家があり、車や歩行者の出入りが多	・車両などの円滑な通行を確保する。 見通しの良い道路整備 ・安全で安心な環境を保持する。 歩行者・自転車通行の安全性の確保 隣接する家屋等からの出入における安全性の確保	

	い。		
・地域活力の向上 ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	主要地方道岡山赤穂線(石生地内)のバイパスの早期実施について 本路線は、石生地区を東西に通過する主要県道であり、交通量が多く原・本地区は生活圏を南と北に分断されている。そのため住民は交通量の多い県道の横断を余儀なくされ、24時間危険にさらされており道路横断による交通事故が多発している。 このような毎日の危険な状況を払拭して地域内生活圏を安心して往来できるようにするためには、地区南に流れる吉井川右岸堤防を県道のバイパスとしての新設が是非とも必要不可欠である。 バイパス新設 L=2,000m	バイパスが新設されることにより区に分断が無くなり、日常の生活圏の行き来が安全安心となり、地域コミュニティがより一層活発になり住みよい地域となる。	
・地域活力の向上 ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	和気橋の架け替え事業の早期実施について 吉井川に架かる和気橋は主要地方道岡山赤穂線(県道96号線)であり、石生地区と町中心部を結節する唯一の橋梁である。しかし幅員は狭く老朽化しており、朝夕の通勤時間帯の渋滞は尋常でなくマンネリ化している。また、和気橋西詰めの交差点は田原上・田原下住民が96号線へ合流する箇所であるが交通渋滞により待機時間が長いのと危険な状態が日常的に発生し交通事故多発している。 そのため、和気橋の架け替えにより交通渋滞の緩	和気橋の架橋によりマンネリ化している交通渋滞が解消され、石生地区民の町内への交流が活発になることで活気が出て住んでよかったと思える地域になる。	

	和と交通事故解消のためにも橋梁の新設が急務である。 和気橋は昭和３９年に完成(約４３年が経過)		
・地域活力の向上 ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	県道和気・吉井線の整備促進について 本路線は、国道３７４号線の対岸を走る県道で、和気町と赤磐市を結ぶ地域間連絡道路として、また、国道３７４号線の迂回路として必要不可欠であり、地域間の連携を深め、広域的な生活圏を形成する上で、その整備が地域の活性化に果たす役割は非常に大きいものがあります。 しかしながら、和気町津瀬地内で未供用区間があり、また、幅員狭小箇所が多数存在しており、通行に支障をきたしているのが現状であります。 つきましては、地域経済文化の発展と住民福祉の向上に資するため、早急に改良整備していただきたく格段のご配慮を賜りますようお願いします。 ・和気町津瀬地内の未供用区間の早期完成 ・和気町父井原(小原)地内の拡幅工事(待避所)の早期着手	地域間の連携を深め、広域的な生活圏を形成する上で、その整備が地域の活性化に果たす役割は非常に大きいものがあります。	
・地域活力の向上 ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	一般国道３７４号の整備促進について 本路線は、岡山県の東部を直結する唯一の道路であり、備前市を中心とする東備圏域と津山市を中心とする美作圏域を結ぶ重要な幹線道路であり	「地方の時代」と言われる現在、地域間の連携を深め、地方の快適な生活を可能とする広域的な生活圏を形成することがますます重要となっており、幹線道路の整備が地域の活性化に果たす役割は非常に大きいものがあ	

	ます。 沿線の３市２町の産業の発展と地域住民の福祉の向上のために、国道３７４号の一日も早い全線整備が望まれるところであり、次の事業の早期完成を強く要望します。 ①和気町衣笠地内の交差点改良 L=100m 右折車線整備 ②和気町福富地内の交差点改良 L=100m 右折車線整備 ③備前市 国道２号から和気町境までの自転車・歩行者(交通安全施設等整備事業) L=1,000m W=3.0 m ④赤磐市周匝・福田地内の自転車・歩行者道未改良区間の整備 3箇所 L=00m W=2.5 m ⑤美作市奥地内の自転車・歩行者道の整備 L=400m W=3.0 m	ります。 観光面をとってみても、沿線の美作市には「湯郷温泉」やF１グランプリが開催された「岡山国際サーキット」があり、赤磐市には岡山農業公社「ドイツの森・クロネンベルク」が、さらに勝央町には農業体験を中心とした公園「おかやまファーマーズマーケット・ノースヴィレッジ」があり、県内外から多数の観光客が訪れ、これらの拠点を有機的に連携することで広域的な観光圏域が形成され、沿線の地域活性化に大いに寄与するものと期待されます。	
--	--	--	--